



モビリティ革命の実現に向けて

～鉄道技術とITを融合させお客さまサービスや運行の変革(イノベーション)を実現する～

140年余りの鉄道技術の蓄積をベースに、IoTやビッグデータ、AIなどを活用して、JR東日本グループが提供するサービスをお客さま視点で徹底的に見直し、従来の発想の枠を超えてモビリティ革命を起こしていきます。

移動のための情報・購入・決済をオールインワンで提供 (モビリティ・リンケージ・プラットフォームの構築)



従来は、駅および鉄道を中心としたサービスを提供することで、鉄道沿線の活性化に寄与してきましたが、今後は、出発地から目的地までの移動全体を一つのサービスと捉え、お客さまの生活の豊かさの創造をめざしていくことにチャレンジします。

そのために、移動のための情報・購入・決済をお客さまにオールインワンで提供する「モビリティ・リンケージ・プラットフォーム」を構築し、「シームレスな移動」、さらには総移動時間の短縮、「ストレスフリーな移動」を実現します。

モビリティ・リンケージ・プラットフォーム構築に向けた実証実験の実施

モビリティ・リンケージ・プラットフォームの取組みの一環として、複数の交通手段を一つのアプリでご利用いただくスマートフォンアプリサービス「Ringo Pass」の実証実験を実施しています。バイクシェアおよびタクシーから開始し、さらなる機能や交通手段の追加をめざしていきます。

バイクシェア利用 Ringo Passによるバイクシェアの利用(2018年8月より開始)

①【会員登録】アプリにメールアドレス、クレジットカード情報、Suica ID番号を登録します。

②【ポートを探す】Ringo Passアプリの画面で近くのポートと残り台数を確認できます。

③【開錠】バイクシェアを利用する際に、登録したSuicaカードをタッチして開錠します。

④【返却・交通費精算】利用後、ポートに返却すると、返却完了メールが届きます。また、月間ご利用代金が、翌月初めにクレジットカードで決済されます。レシートはメールで届くので、そのまま交通費精算にご活用いただけます。

タクシー利用 Ringo Passによるタクシー利用(QR決済予約)(2018年10月より開始予定)

②【タクシーを探す】Ringo Passアプリの画面で周辺を走行しているタクシーの場所が表示され、効率良く見つけることができます。

③【チェックイン】タクシーに乗車したのち、車内のQRコードをアプリで読み取ると、事前に決済予約ができます。

④【支払い・交通費精算】目的地に到着し、タクシーメーターを「支払い」にすると、金額が確定します。お客さまは金額を確認し、そのまま降りるだけです。また、レシートはご利用1件ごとにメールで届くので、そのまま交通費精算にご活用いただけます。

※画面は開発中のものです

「Ringo Pass」はさまざまな交通手段をスムーズに利用できるサービスの実現をめざし検討してきました。本実証実験は、モニター企業数社の社員の方を対象として行います。「Ringo Pass」は、「交通サービスを探す」、「Suicaを交通サービスの鍵として使用する」、「クレジットカードで支払う」機能を有しているアプリです。1回会員登録を行うと、さまざまな交通サービスを利用できます。*「Ringo」とは「Ride and Go」の略称です。

次世代新幹線に向けた研究開発の実施

「次世代新幹線の実現に向けた開発」を進めるための試験プラットフォームとしてE956形式新幹線試験電車(愛称:ALFA-X アルファエックス)を新造します。次世代新幹線ではこれまでの安全・高速な移動手段の提供に加えて、新たな価値の提供をめざし、さらなる「安全性・安定性の追求」「快適性」「環境性能」「メンテナンス性」をコンセプトとして開発を進めます。試験電車は2019年春に落成予定です。



E956形式新幹線試験電車(ALFA-X アルファエックス)イメージ

VOICE

技術イノベーション推進本部
ITストラテジー部門
モビリティ変革グループ 主席
日高 洋祐

モビリティ革命の実現にむけて

私の所属する技術イノベーション推進本部モビリティ変革グループでは、オープンイノベーションの考え方のもと、交通サービスの変革をめざしています。具体的には、当社だけでは実現できないDoor to Doorのサービスや、社会的課題の解決に向けて100社を超える企業や団体と一緒に取り組んでいます。また、当本部にはシステムマネジメント、技術開発、データ分析、JR東日本アプリチームなどさまざまな専門家が集結しています。部門の壁を越えて一丸となって、Mobility as a Service(鉄道に加えて、バスやタクシー、レンタサイクルなど多様なモビリティサービスを統合するサービス)の実現に向けた戦略策定・推進を行っていきます。

仙台支社
新幹線総合車両センター
高速走行試験プロジェクト
車両技術主任
藤原 龍

新幹線高速化プロジェクトについて

私が所属している高速走行試験プロジェクトでは、安全で高速な移動手段に加え、新たな価値を提供する次世代新幹線の実現をめざしています。現在は、開発を進めている試験車両E956形式「ALFA-X」導入に向けて、社内規程の整備や検査体制の確立、各種教育などの受け入れ準備のほか、導入後の走行試験、検査業務などを検討しています。「ALFA-X」には多くの開発要素が盛り込まれているため、試験車両導入までにさまざまな課題に直面することが予想されます。プロジェクトメンバーだけでなく、各車両センター、本社・支社、グループ会社と連携しながら、JR東日本グループ全体で課題を解決できる体制をつくっていきます。そして、車両の設計会議等を通じて、メンテナンス職場としての視点を活かし、改善案を積極的に提案し、試験車両の後に導入される量産車へのフィードバックにつなげていきます。

関連記事についてはP59、60をご参照ください